

事務事業名		幼児ことばの教室指導員配置事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業																																				
政策体系	政策名	0 2 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間																																					
	施策名	0 7 結婚支援と子ども・子育て支援の充実		区分																																					
	基本事業名	0 3 子育て支援環境の充実		単年度繰返																																					
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																																					
所属	部課名	教育委員会事務局教育研究所		【開始年度】																																					
	課長名	佐藤 和生		12 年度～																																					
	係名	-		-																																					
	担当者	高橋 文義	電話	0192-27-3111																																					
			内線	264																																					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																																					
本事業は、就学前の早期からの指導により、ことばの障がいの克服をめざす。盛小学校に幼児ことばの教室を設置し、午前中3時間、週5日間での指導を行う。対象の幼児は週1回の指導を受け、障がいの克服を図る。(指導者・・・非常勤職員<1名>) 事業費の内訳は、報酬・旅費である。				<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td></td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>延べ業務時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金			都道府県支出金			地方債			その他			一般財源			事業費計(A)	0	人件費		正規職員従事人数				延べ業務時間				人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)			0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																																						
			都道府県支出金																																						
			地方債																																						
			その他																																						
			一般財源																																						
		事業費計(A)	0																																						
人件費		正規職員従事人数																																							
		延べ業務時間																																							
		人件費計(B)	0																																						
トータルコスト(A)+(B)			0																																						

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動) 週5日間、午前中3時間、午後1時間で、就学前の幼児を対象に、ことばの障がいの克服を図る指導を行っている。対象の幼児は20名程度。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 指導回数(延べ)</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 指導回数(延べ)	回	イ		ウ	
名称	単位								
ア 指導回数(延べ)	回								
イ									
ウ									
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ。									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ことばの障がいにおいて、指導改善を要する幼児	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 検査を受けた幼児</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 検査を受けた幼児	人	キ		ク	
名称	単位								
カ 検査を受けた幼児	人								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 就学前の早期から指導されることにより、ことばの障がいを克服する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 指導を受けた幼児数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 指導を受けた幼児数	人	シ		ス	
名称	単位								
サ 指導を受けた幼児数	人								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 基本的な生活習慣や態度が身につく									

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	2,276	2,396	2,058	2,058	2,058	2,058	
		事業費計(A)	千円	2,276	2,396	2,058	2,058	2,058	2,058	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	50	50	
		人件費計(B)	千円	200	200	200	200	200	200	
		トータルコスト(A)+(B)		千円	2,476	2,596	2,258	2,258	2,258	2,258
⑤活動指標		ア	回	323	355	353	355	355	355	
		イ								
		ウ								
⑥対象指標		カ	人	716	666	590	666	666	666	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	人	32	30	29	30	30	30	
		シ								
		ス								

事務事業ID	0922	事務事業名	幼児ことばの教室指導員配置事業
--------	------	-------	-----------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	早期に改善指導を実施することにより、より効果的に指導ができることから、就学前の幼児を対象に「ことばの指導」を実施することとなった。平成12年度より開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	ことばに障がいのある幼児数は、横ばい傾向にある。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	対象幼児の保護者は、ことばの障がい克服されていく様子を見て、指導を受けて良かったと思っている。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている      ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 就学前にことばの障がいを克服する指導を受けることで、就学後の学習が円滑に行われている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である      ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 就学後の学習が円滑に行われ、就学後のことばの教室における継続指導においても非常に効果的である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である      ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 指導を希望する対象者数と、指導可能な人数がほぼ一致していることから、対象は妥当である。就学前にどの幼児もことばの障がいを克服することを目標にするためには、現在の意図を限定・拡充する必要はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない      ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 通常の指導可能な人数は15名であり、それを上回る幼児の障がいが克服されており、十分な成果が得られている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある      ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ ことばに障がいをもった幼児が、就学後にことばの指導を受けることになるため、通常の教科等の学習に支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない      ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費の内訳は人件費であり、人員削減や勤務時間短縮は、仕事の性質上不可能である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない      ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 専門的な対応が必要であり、時間のかかる業務であり、削減は不可能である。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である      ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 幼児のことばの障がいを克服するための人員配置は、行政のコストとして負担するのが妥当である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	ことばの指導については、就学前の早い段階で指導を行うことが早期改善につながるものであることから、今後も継続し本事業を実施していく。